

平成14年度文部科学省「21世紀COEプログラム」研究拠点形成費補助金

(京都大学 機関番号14301 整理番号D-2)

心の働きの総合的研究教育拠点

Center of Excellence for Psychological Studies

平成16年度活動報告書

2005年3月

京都大学心理学連合

Kyoto University Psychology Union

研究拠点の名称

心の働きの総合的研究教育拠点

Center of Excellence for Psychological Studies

(京都大学 機関番号 1 4 3 0 1 整理番号 D - 2)

(拠点番号 D - 1 0)

研究拠点形成費

平成 14 年度 182,000 千円

平成 15 年度 135,000 千円

平成 16 年度 108,300 千円

学内関連部局

文学研究科 (行動文化学専攻 心理学専修)

教育学研究科 (教育科学専攻 教育認知心理学講座、教育方法学講座 /
臨床教育学専攻 心理臨床学講座、臨床教育学講座)

人間・環境学研究科 (共生人間学専攻 社会行動論講座、認知科学講座、
行動制御学講座)

* 高等教育教授システム開発センター (高等教育教授システム研究開発部門)

情報学研究科 (知能情報学専攻 生態認知情報学講座)

* 生物科学研究科 (霊長類学専攻 思考言語分野)

注) * は協力部局である

研究組織

研究課題 A チーム 「イメージと表象の性質と機能」

研究課題 B チーム 「身体化される心」

研究課題 C チーム 「文化・社会的環境との相互作用」

研究課題 D チーム 「進化と生涯発達」

構成メンバー（*は研究協力者、それ以外は事業推進担当者）

氏名	専攻	専門	チーム
藤田 和生	文学研究科（行動文化学専攻）教授	比較認知科学	D, A, 拠点リーダー
苧阪 直行	文学研究科（行動文化学専攻）教授	知覚心理学	A(チームリーダー)
櫻井 芳雄	文学研究科（行動文化学専攻）教授	認知神経科学	A
楠見 孝	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	認知心理学	A, B
齊藤 智	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	認知心理学	A(チームサブリーダー)
*岡田 康伸	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	心理臨床学	A
*皆藤 章	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	臨床教育学	A
河合 俊雄	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	心理臨床学	A, B
*石原 宏	教育学研究科（臨床教育学専攻）助手	心理臨床学	A
*藤原 勝紀	教育学研究科（臨床教育実践研究センター）教授	臨床心理実践学	A
*大山 泰宏	高等教育教授システム開発センター助教授	臨床教育学	A(チームサブリーダー)
船橋 新太郎	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	認知神経科学	A, B
*山本 洋紀	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）助手	視覚心理学	A
*久代 恵介 ¹⁾	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）助手	認知神経科学	A
齋木 潤	情報学研究科（知能情報学専攻）助教授	認知科学	A
伊藤 良子	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	臨床心理実践学	B(チームリーダー)
蘆田 宏	文学研究科（行動文化学専攻）助教授	認知心理学	B(チームサブリーダー)
吉川 左紀子	教育学研究科（教育科学専攻）教授	認知心理学	C(チームサブリーダー), B
山中 康裕	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	心理臨床学	B
*角野 善宏 ¹⁾	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	臨床心理実践学	B
*黒川 嘉子	教育学研究科（臨床教育実践研究センター）助手	臨床心理実践学	B
松村 道一	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	認知神経科学	B(チームサブリーダー)
内藤 栄一	総合人間学部（共生人間学専攻）助手	神経科学	B
東山 紘久	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	臨床心理学	C
杉万 俊夫	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	社会心理学	C(チームリーダー)
桑原 知子	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	心理臨床学	C(チームサブリーダー), B
渡部 幹	総合人間学部（共生人間学専攻）助手	社会心理学	C
山田 洋子	教育学研究科（教育科学専攻）教授	生涯発達心理学	D(チームリーダー), C
板倉 昭二	文学研究科（行動文化学専攻）助教授	発達認知科学	D(チームサブリーダー), B
子安 増生	教育学研究科（教育科学専攻）教授	発達心理学	D
*遠藤 利彦	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	生涯発達心理学	D
*溝上 慎一	高等教育教授システム開発センター 助教授	青年心理学	D
*松沢 哲郎	霊長類研究所（思考言語分野）教授	比較認知科学	D, C
*友永 雅己	霊長類研究所（思考言語分野）助教授	比較認知科学	D, A
*田中 正之	霊長類研究所（思考言語分野）助手	比較認知科学	D(チームサブリーダー), A

1) 角野 善宏、久代 恵介 10月1日から研究協力者

目次

はじめに	1
プロジェクトの内容	3
各研究チームの成果の概要	11
海外拠点形成成果報告	17
シンポジウム、ワークショップ、講演会の開催記録	21
大学院生交流と若手研究者養成プログラム	41
修士論文及び博士論文	45
業績	51
添付論文	65

研究課題 A 「イメージと表象の性質と機能」

番 浩志・中越明日香・山本洋紀・田中忠蔵・梅田雅宏・江島義道 (2004). 線及び面補完知覚における大脳皮質低次視覚野活動の解析 - fMRI 研究 -, **電子情報通信学会技術研究報告(ヒューマン情報処理)**, 104 (100), 1-6.

Imaruoka, T., Saiki, J., & Miyauchi, S. (in press). Maintaining coherence of dynamic objects requires coordination of neural systems extended from anterior frontal to posterior parietal brain cortices. *NeuroImage*.

Kawai, T. (2004). Postmodern consciousness in the novels of Haruki Murakami. Singer, T. (ed.) *The Cultural complex*, London: Routledge, 90-101.

Kondo, H., Osaka, N., & Osaka, M., (2004). Cooperation of the anterior cingulate cortex and dorsolateral prefrontal cortex for attention shifting. *NeuroImage*, 23, 670-679.

Saito, S. & Baddeley, A. D. (2004). Irrelevant sound disrupts speech production: Exploring the relationship between short-term memory and experimentally induced slips of the tongue. *Quarterly Journal of Experimental Psychology*, 57A, 1309-1340.

Sakurai, Y., Takahashi, S., & Inoue, M. (2004). Stimulus duration in working memory is represented by neuronal activity in the monkey prefrontal cortex. *European Journal of Neuroscience*, 20, 1069-1080.

Takeda, K. and Funahashi, S. (2004). Population vector analysis of primate prefrontal activity during spatial working memory. *Cerebral Cortex*, 14: 1328-1339.

研究課題 B 「身体化される心」

Ashida, H. (2004). Action-specific extrapolation of target motion in human visual system. *Neuropsychologia*, 42, 1515-1524.

伊藤良子 (2004). 遺伝カウンセリングからみた病の意味 (特集: 病の意味) **精神療法**, 第30巻第4号, 金剛出版, 403-408.

角野善宏 (2005). 統合失調症の心理療法. 山中康裕・河合俊雄 (編) **心理療法と医学の接点**. 京大心理臨床シリーズ. 創元社. 24-37.

研究課題C 「文化・社会的環境との相互作用」

Nakayachi, K., & Watabe, M. (in press). Restoring Trustworthiness after Adverse Events: The Signaling Effects of Voluntary “ Hostage Posting ” on Trust. *Organizational Behavior and Human Decision Processes*.

Sakamoto, M., Hagihara, Y. & Sugiman, T. (2004). A dynamic system model of social conflict that combines attitude change model and game theory. *Asian Journal of Social Psychology*, 7(3), 263-284.

吉川左紀子・佐藤 弥 (2005). 表情による情動コミュニケーションの神経機構. *精神科治療学*, 20(3).

研究課題D 「進化と生涯発達」

安藤花恵・子安増生 (2004). 演劇経験の有無による味覚表情の表出ならびに演技の差異. *認知科学*, 11, 61-74.

Callaghan,T., Rochat,P., Lillard,A., Claux,M.L., Odden,H., Itakura,S., Tampanya,S., & Singh,S. (in press). Synchrony in the onset of mental state reasoning: Evidence from 5 cultures. *Psychological Science*.

遠藤利彦 (2004). 読む目・読まれる目：視線理解の進化と発達 遠藤利彦(編) (印刷中, 2005年5月発刊予定)「読む目・読まれる目：視線理解を通してみる心の源流」掲載予定論文(一部修正)

Fujita, K. (2004). How do nonhuman animals perceptually integrate figural fragments? *Japanese Psychological Research*, 46, 154-169.

溝上慎一 (2004). 大学新入生の学業生活への参入過程 - 学業意欲と授業意欲 - . *京都大学高等教育研究*, 10, 67-87.

Yamada, Y. & Kato, Y. (2004). Japanese and French students' images of the soul and its passage after death. In Formanek, S. & LaFleur, W. R. (Eds.) *Practicing the afterlife: Perspectives from Japan*. Verlag der Osterreichischen akademie der wissenschaften wien. 437-459.

(なおアンダーラインはCOEメンバーである。)